

発行＝21世紀教育研究所

所長 中山和彦

〒305-0045 茨城県つくば市梅園2-3-6

TEL 029-850-3321 / FAX 029-850-3330

E-mail econews@eri21.or.jp

URL <http://www.eri21.or.jp>

納得し、創造しながら学習することの大切さを今こそ	1	2003年スタディメディアコーディネータ研修会から	
スタディノート Ver.6 を活用した図画工作科の実践	2	PICK UP	6
どこが変わる？スタディノート Ver.6.5	5	スタディ地域研究会の活動から	7
おすすめ本（其の一）『ネットワークで育む「確かな学力」		夏です、研修会のお知らせです！	8
つくば市共同学習プロジェクトへの挑戦』	5	おすすめ本（其の二）『教員養成系大学における情報教育	
		の試みⅣ コンピュータ利用教育（集中講義編）』	8

納得し、創造しながら学習することの大切さを今こそ

21世紀教育研究所所長 中山 和彦

基礎基本の完全習得

昨年8月に文科省が個に応じた指導に関する指導資料で、発展的な学習や補充的な学習の推進について算数編と理科編が出版しました。その中に学習指導要領の最低基準性という記述があって、初めて学習指導要領に書かれている内容は、最低基準だと言うことが明記されました。そして、学習者全員が完全に履修しなければならないということになったのです。

先生方は、児童生徒全員が基礎基本を完全習得できるように、現在もやっているとおっしゃるかもしれません。しかし、文科省が、発表した去年行われたサンプルの学力テストの結果を見ると、円周の長さの計算ができない児童が40パーセントぐらいになっていました。おそらく、それを勉強していたときはみんなできたのだと思います。ところが、しっかり自分なりに納得して、身につけていなかったのです。学習が終わったら忘れてしまったのです。

納得しながら学習を進める

スタディのCAI研修会用テキストの名は「7+4」です。「7+4」の典型的な誤りと言うと、日本でもアメリカでも9という答えがでてくるのです。何故、9かと言うと、子どもがどうやって計算するか思い出して見ればわかると思います。9になる理由は計算するときに指を使ったからです。私は10の東なんていうのをやるよりも指を使わせた方がずっといいと思う。指で7まで数えて、また、4を足して折り返したことを忘れると9になるのです。9という答えを出した子に、間違いともなるとも言わないで、8+4をやらせてみたら、また、指で数えて8になりそうですが、8という答えを出しません。ちゃんと12という答えを出します。その子に、また、7+4をやらせると今度は11という正解が出ます。そういう子どもに8+

4=12とすぐに答えが出たのかと聞くと、「はじめは、指で数えて8になったの。でも、8に4足したのに8のままではおかしいと思ってよく考えたら、指を折り返していたことに気が付いたの。」というような答えをしました。この子どもは、自分で自分の間違いに気付いて直せたのです。答えを出す新しい確実な方法を自分で発見したのです。私は、それを創造だと言っています。自分で新しいものを作り出したのです。この子は一週間後に再テストを行っても絶対に間違えません。こうして、7+4を間違えたうちの2/3以上の子が正しい方法を自分で発見して、自分で正解を答えることができる。そういう子は、もう間違えないということが分かりました。

正しく間違える

私は、子どもはでたらめに間違えるのではない、正しく間違えるのだと言っています。自分で考え、その考えに基づいて答えを出してくる。その考え方のどこかに問題があるために、我々の言う誤答になるのです。だから、子どもがだしている答えを見れば、何処が悪いのかということが検討つく、誤答に着目すれば、何故、そういう誤答をだすのかがわかる。そうすれば、その間違いの元を治療することができる。子どもは正しく間違えるのだから、その正しく間違えるのをどう治療するのが大切なのです。こうした考えに基づいて作られた教材を使ったCAIは学習者一人ひとりが自分の能力に応じて、コンピュータと対話しながら、自分のスピードで、「自分になるほどそうか！」「わかった！」と納得しながら、また、創造しながら学習をしていくシステムなのです。だから、いつになっても古くさい方法にならないのです。

（2003年スタディメディアコーディネータ研修会
講演から）

実践
報告

スタディノート Ver.6 を活用した図画工作科の実践

八王子市立柏木小学校 尾池佳子

1 はじめに

柏木小学校では、1997年にコンピュータ20台が設置され、1998年にはスタディノートを導入し、1999年にインターネットに接続、2001年には、ホームページ <http://www1.ttv.ne.jp/~kasiwagi/> が開設された。

この間、地域のメーリングリストを活用した「南大沢21プラン」を始めとした実践が、総合的な学習の時や理科を中心にスタディノートを使って様々取り組まれてきた。そして、図画工作科では、1997年のコンピュータ導入以来、多摩美術大学の学生の授業支援ボランティアによる図工CGなど、コンピュータを取り入れた造形活動に積極的に取り組んできた。

さて、2002年度より実施された学習指導要領では、図画工作科の鑑賞がより重視されるようになり、地域の美術館などの積極的な利用をすすめている。「総合的な学習の時間」も実施されることになった。また、柏木小学校は、多摩ニュータウンの西側に位置し、2003年には開校21年になる。近隣には東京都立大学、多摩美術大学など大学が多くある。そこで、このような地域性を活かした「総合的な学習の時間」と、図画工作科の鑑賞および表現の授業を横断的にとらえた実践を考えた。さらにホームページやMLを介しての地域や保護者への作品発表や、フォームを利用した鑑賞者の意見収集を試みた。ここでは、スタディノート Ver.6 を用いて行われた、小学校4年生と5年生での実践について報告する。

2 南大沢で見つけたアート（4月末～7月）

この実践は、2002年度、柏木小学校4年生76名（2クラス）で行った。見慣れた地域の身近な造形に潜むアートを見つけだす鑑賞活動を通して、豊かな感性を育み、地域の良さ・魅力を再認識させるとともに、情報活用能力・プレゼンテーション能力をも高めることを目指した。

2.1 アートってなあに？

3年次の「総合的な学習の時間」で地域の自然を学ぶ「どんぐり探検隊（2001年度）」を行った。そして図画工作の時間には、様々なファインアートの制作を通じて、造形の面白さを感覚的にとらえる体験をしてきた。今回、アート探検のフィールドワークの事前指導にあたっては、3年次での体験を前提

に、まず、美術館に飾られた有名作家の作品だけがアートではないということを知らせた。さらに、アートを見つけるためのキーワード（かっこいい、おもしろい、たのしい、彫刻、オブジェ、たてもの、マンホールのふたなど）を提示した。

2.2 アートを見つけに行こう！



図1 アート探検の様子

都立大学や中郷公園といった地域を、班ごとにデジカメを抱えて、アート探しをした。クラスごと2回に分けて、地域を探検し、一つの班で約150枚のアートの写真を撮影した。

2.3 自分が見つけたアートをみんなに紹介しよう

たくさん撮った写真の中から、それぞれ自分の「いち押しアート」を選ぶ。自分の感じたイメージでアートに名前をつけ、スタディノートで、自分の選んだアートを紹介する。



図2 データベースの情報マップ画面

2.4 書いたノートをデータベース（マップ）にあげて、みんなで見合おう（文章や画像で伝える。ホームページにも載せて、保護者の方、地域の方々や、様々な人に見てもらおう。）

2.5 コンピュータで「自分の見つけたアート」をプレゼンテーションしよう

クラスごとに、一人一分間、全員のプレゼンテーションを行った。その後、校内研修の研究授業として家庭科室でクラスの代表者5名ずつによるプレゼンテーションを行った。

2.6 まとめ（反省&感想など）

子ども達一人一人の「南大沢で見つけたアート」の感想を指導教員宛のメールで集約した。また、感想のメールをくださった地域の方にお礼のメールを出した。

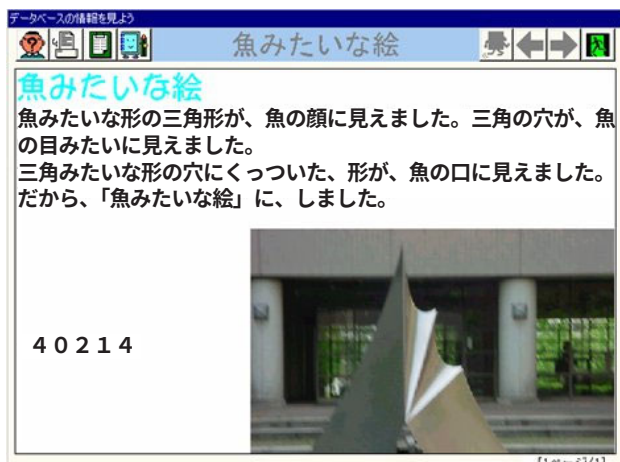


図4 「南大沢で見つけたアート」作品例

3 南大沢におきたいアート（11月末～2月）

一学期に実践した「南大沢で見つけたアート」を発展させた「南大沢におきたいアート」に2学期後半から取り組んだ。南大沢に今度は、自分たちのアートを飾ってみよう、「南大沢がこんな”まち”になったらいいな」「南大沢にこんなアートがあったら素敵だな」そんな願いをこめてアート（オブジェ）を制作させた。さらにアートと置きたい場所の写真をCG合成し、本当にその場所に置いてあるかのように作った。作った合成写真には、メッセージを入れインターネットでみんなに見てもらおうという取り組みである。

3.1 アートをつくろう

発泡スチロール、段ボール、アルミワイヤー、アクリル絵の具などの材料を使って数名のグループごとに、メッセージを発信する立体作品を制作した。

3.2 アートを置きたい場所の写真を撮ろう。

南大沢の“まち”を歩いて、グループごとに自分たちのアートを置いてみたい場所を探しデジカメで撮影した。

3.3 アートとおきたい場所の写真を「ポスターをくふうする」*1で合成しよう。

撮影したアートの写真とおいてみたい場所の写真を、「ポスターをくふうする」*1を使って合成し、あたかも現実にあるかのような写真を作った。



図3 南大沢駅周辺を撮影しているところ

3.4 さらに3.3で作った合成写真をスタディノートに取り込んで、以下の説明を書き加え、みんなで見合おう

ホームページにも載せて、保護者の方、地域の方々など様々な人に見てもらった。子ども達がスタディノートでまとめる際には、以下の内容を必ず入れるように留意した。

＊ 南大沢がどんなまちになってほしいか？

＊ 自分達のつくったアートにこめられたメッセージ。

＊ 南大沢の中でどうしてその場所をおきたい場所を選んだのか？

*1「ポスターをくふうする」：ポスター作成のレイアウトや画像処理の機能を学ぶ学習用ソフト



図5 「南大沢におきたいアート」作品例

3.5 まとめ（反省&感想など）

データベースにあげたお互いの作品（親情報）を見合い、感想（子情報）を入れることで、まとめとした。また、校外から頂いた感想のメールにお礼のメールを書いた。

3.6 建築彫刻家・伊原通夫氏との交流

子どもたちの「南大沢で見つけたアート」のデータベースを柏木小のホームページに掲載するにあたって、掲載するアートの著作権の取り扱いについて、著作権情報センターへ問い合わせた。その結果、

スタディノート Ver.6を活用した図画工作科の実践

建物内に置かれた作品の作者にホームページ掲載許諾をとらなければならないということが解った。

この掲載許諾請求がきっかけで、米国ボストン在住の建築彫刻家・伊原通夫氏と子供たちとの交流が生まれた。伊原氏から子ども達のアート紹介の感想と一緒に伊原氏の作品集が、エメールで届けられた。作品集は、図工の時間に鑑賞し、感想とお礼の言葉を書いた。

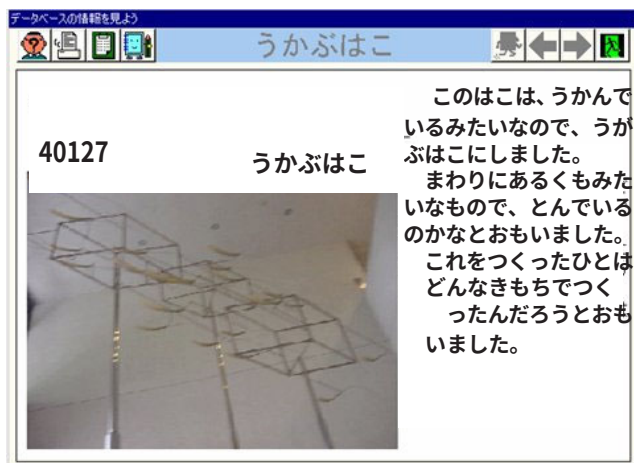


図6 伊原氏の作品を紹介した「南大沢で見つけたアート」作品例

4 ならべてアート

この実践は、2002年度、柏木小学校5年生78名(3クラス)で行った。目に見えないもの、例えば「優しい」「悲しい」などの感情を、形あるものをならべて表現し伝えることを目指した。グループまたは個人で、ものを並べて制作したアートは、デジカメで撮影し、スタディノートに取り込み、データベースでお互いに見合い、自分たちの表現が伝えられたかどうか、また他の人たちが何を伝えようとしたのかを考えた。

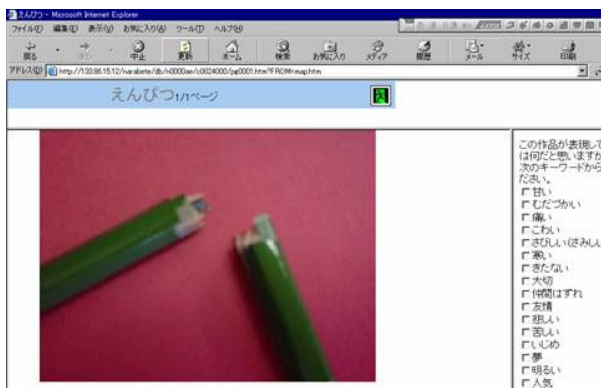


図7 「ならべてアート」作品例

作品は、ホームページに掲載し、ホームページ閲覧者からも、それぞれの作品が何を表現しているの

か回答を寄せてもらった。いくつかのキーワードから、ふさわしいと思うものを選択しチェックできるフォームを取り入れ、回答を収集しやすくした。

この取り組みは、「学校だより」で保護者に協力を呼びかけただけでなく、スタディノートML(study@note.kasei.ac.jp)や、子ども達のまなびを支援する地域のML「多摩・まなび」(tama-manabi@ml.metro-u.ac.jp、http://133.86.15.12/ikuta/manabi/manabi.html)で協力を呼びかけた。その結果、ホームページ閲覧者から寄せられた回答は、37件であった(柏木小ホームページのアクセス数は一週間平均100程度である)。

ホームページ閲覧者からの回答には、子ども達から協力のお礼と正解(子どもたちが表現したかったこと)を書いたメールを送った。

5 実践の成果とまとめ

スタディノートVer.6では、画像の処理がドラッグ&ドロップでできるようになった。このことは、他のソフトとの互換性もあり、画像を多く扱う今回の実践を大変やりやすくしてくれた。データベースにマップ機能が加わったことや、そのhtml化ができるようになったことなどは、アート探検の様子をより解りやすく伝えることに効果を発揮した。

今回、随時ホームページや地域のMLで活動の様子を発信した。その結果、日頃仕事のために授業参観さえこられない母親が会社から昼休みにメールで励ましの感想をよせてくれたり、地域の方から感想のメールを頂けたりした。

また、「南大沢で見つけたアート」のデータベースを柏木小のホームページに掲載するにあたって、掲載するアートの著作権の取り扱いについて、著作権情報センターへ問い合わせた。その結果、建物内に置かれた作品の作者にホームページ掲載許諾をとらなければならないということが解った。この掲載許諾請求がきっかけで、米国ボストン在住の建築彫刻家・伊原通夫氏と子供たちとの交流が生まれた。

このように、実践の様々な場面を通して、子どもたちが、自然にインターネットやコンピュータを活用し、情報活用能力(情報の収集・情報の選択・情報の加工・情報の発信・情報社会に参画する態度)を育むことができた。

コンピュータを利用したプレゼンテーションを体験することで、子ども達の公的な場面での話す力、伝えあう力を伸ばすことができた。

さらに、時間・空間・言葉の壁を越えて様々なメッセージを伝える力のあるアートを愛する心情を養うことができたと考える。

どこが変わる？ スタディノート Ver.6.5

スタディノート Ver.6.5の仕様が決まりつつあります。そこで、余田先生に Ver.6 と比べてどこが変わるのかを伺いました。

ECO News (E) スタディノートは Ver.6 ですっかり使い勝手がよくなって、もう完成版かなと思っていたのですが、また、Ver.6.5が出るようですね。これは Ver.6 と比べてどこがさらによくなるのですか？

余田先生 (Y) 画面サイズが簡単に換えられるようになります。起動画面を除く画面が 640×480、800×600、フルスクリーンサイズ3段階に簡単に切り替えられるようになる、これがまず目に付く変化です。

E 画面のサイズについては、先生方からのご要望も多かったのですか？

Y 最近は特にディスプレイの高解像度がどんどんよくなっています。それに伴ってスタディノートの画面を大きくして欲しいという要望を先生方から伺うことが増えてきましたので、それに対応させていただきました。

E 画面を大きくできれば、ノート、メール、掲示板、データベースの情報一覧に表示される情報量は増えますよね。ただ、ノートの一画面に表示される情報量はどうなるのですか？

Y 画面が大きくなっても、ノートの一画面に表示される情報量は変わりません。そこで、ノートをフルスクリーン表示する機能が追加されたのです。もっとも、このフルスクリーン機能は Ver.6 から追加されていました。

E その他に変わった点を教えてください。

Y ノート一覧の画面で「その他」ボタンを選ぶと、画面に「ノートフォルダ」と「フロッピー」のボタンが新たに加わります。「ノートフォルダ」は、ノートに「フォルダ」を使って2階層で管理できるようにする機能です。スタディノートをガッガン使っている学校から「増えてきたノートを整理できるようにしてほしい」という要望を頂きました。このボタンはその要望にお応えした機能です。「フロッピー」ボタンは、現時点ではその機能について詳しく申し上げられませんが、今後の展開にご期待下さい。

E そう言われると、さらに伺いたくなってしまうます。

Y ちょっとだけお話しすると、学校と家庭の間でノートにフロッピーなどのメディアに入れて持って行ったり帰ったりすることが子どもでも簡単にできるようになることを想定しています。

E その他には？

Y システムの更新を予定されている地域の方のためにお伝えしておきますが、サーバのプログラムが、windows2000サーバだけでなく LINUXにも正式対応します。

E スタディノートは、さらに使いやすく進歩しているのですね。

Y ここでご紹介した以外にも、新たに追加される機能やより洗練されて使いやすくなる機能が色々あります。スタディノートの“手になじむ”という感覚にますます磨きがかかり、子どもたちや先生方の願いを叶えるシステムへとさらに一歩近づけることができると思います。

E 多くの先生方にお使いいただき、そのご要望にお応えすることで、機能を広げ成長してきたスタディノートの世界はまだまだ広がりそうですね。

余田義彦 山野井一夫 つくば市教育委員会 編著
21世紀教育研究所 発行 定価1,800円

おすすめ本 (其の一)

『ネットワークで育む「確かな学力」 つくば市共同学習プロジェクトへの挑戦』

つくば市ではすべての小中学校(53校)が高速ネットワークにつながれ、40を越える学校間共同学習プロジェクトが展開されています。それらの実践事例と、誰にでもできるやさしい学校間共同学習授業の始め方を具体的に紹介しました。ここで紹介されている実践事例では、共同学習を進めていくうちに、子どもが「相手」を意識し、わかりやすい表現、返事をもらえる書き方を工夫して情報を発信するように変化していったことがよくわかります。共同学習といってもただ、調べたことの言いっぱなしに終わってしまうことも多い中で、こうした子どもの変化はこれから共同学習をしようとする先生方の参考になると思います。(推薦：中山和彦)

《21世紀教育研究所のホームページ(<http://www.eri21.or.jp>)からご注文いただくことができます。》



2003年スタディメディアコーディネータ研修会から

6月7日・8日スタディメディアコーディネータ研修会が開催されました。

今年の会場はシャープ幕張ビル。Super Contemporary Townに
全国から68名の先生方が集まりました。

最高基準はなくなった？

学習指導要領は最低基準で、それを全員が完全に履修しなければならないということになったのです。最高基準はなくなったのです。個に応じ、その子ができればどこまでいってもいいということになってしまった。これは、実質的な無学年制というものになってくる可能性というものがあるのではないかなと思います。A君は算数は5年生、社会は3年生、そんな時代がくる可能性があるのではないかなと思います。

(中山和彦先生 講演から)

繰り返し言います 大事なことから 『子どもは正しく間違えるのです』

子どもが間違えたのは、そんなふう間違えるように教えていたのです。それを気が付かないで、子どもが悪いせいにしてしまいがちです。ところが、これは先生方自身の問題なのです。そんなふう考えるようにこちらが指導してしまった。そこが問題なことに気が付かなかった。ですから、子どもの誤答は自分の鏡なんだ、鏡に映っている自分の姿なんだと、子どもの誤答が大切なのです。

(中山和彦先生 講演から)

みんな育てて行ければいいなと思っています インタラクティブスタディ ～遺産の継承 と新しい発想～

我々が中山先生の前で学んできたCAIの考え方を是非また全国の研修会でもう一度ご参加の先生方に振り返って頂きたいと考えております。東原先生はホームページで資料を公開していらっしゃいますし、今年も長野県ではインタラクティブスタディだけの研修会を開催いたします。ちょっと昔に帰って教材作成をしながら学習というものについて見直したり意見交換をする研修会です。

一方で、(インタラクティブスタディを活用した授業が、CAI室を出て)地域を超えて広がっていく、授業の外に出ていくということになると、教材の作り方、教材に対する考え方少し変えていかないといけないのかなと思います。今までのように、必ず教師の前に子どもがいて、(先生を呼びなさいのように)その場での個別の指導、支援ができることを前提にやってきたCAIとは違う考え方に立ったものも必要になってくるように思っています。また、子どもが教材を作るということをもう少し発展させますと、たとえば、今、地域の調べ学習をしてスタディノートを使った地域間交流学習が盛んに行われていますが、それと同じように、地域で調べたものを元に、学習のまとめの一環として、子どもがクイズを作ってそれをWEB上に載せるというような形でインタラクティブスタディを使っていこうと

いう考え方もあります。教科の学習だけではない使い方の一つとしてインタラクティブスタディの新しい可能性があると思います。また、地域サーバを利用して名簿登録をしておく学習履歴が取れることを利用してアンケート調査のようなことができます。共同学習校の名簿を登録しておけば、「このアンケートに答えて下さい」としてWEB上に載せて答えてもらえば、記録が残ってそのまま集計が自動でなされるという使い方でもできます。

(インタラクティブスタディには)今までのCAIがそのまま継承されて、基礎基本(の完全習得)ということで足下に戻って見返して行かなければいけない面と新しい環境が出てきた中で違った角度からCAIを活用していく可能性が出てきたという両面があります。どちらもこれからです。先生方と意見交換をしながらいろいろな可能性を考えていかなければならないところに来ているのではないかなと思います。システムのにもまだまだ発展途上、完成したものではありません。いろいろところで、先生方のアイディアを出していただいたり、情報交換をして、今、芽を出したばかりのインタラクティブスタディをみんなで育てて行ければいいなと思っています。スタディの良さというのは研修会が終わると必ずバージョンアップする、一日目より二日目、一時間ごとに進歩するということに開発の方々が頑張ってきたというのがスタディの歴史です。

(NETの会 成田顕宏先生
インタラクティブスタディセッションから)

私とスタディ 惚れた理由

CAIを知り実践を始めたのは18年前からです。(中略)CAIを始めて点数が上がった他に、子どもが文章をきちんと読むようになった、学習行動を自分から起こしてやるようになったと担任が言っていました。子どもが復習ばかりでは面白くないよ、新しいことを(コンピュータで)やりたいと言いだしましたので、じゃあと、全くやっていないところをCAIでやってみました。どうなったかという、(子どもは)教科書を参考書にしながら、友達とはなしながら、(学習を進めて)いました。本当に「わかった!」とできる喜び、わかる喜びを感じていると実感しました。そういうことがCAIのよさかな、私が惚れて、管理職になってからもずっと(CAIの実践を)進めてきた理由だと思います。

(更埴市教育情報センター宮原一夫先生 講演から)

私とスタディ 先生も変わる

学習の道具として使ってもらうためには、体験してもらうことが大切です。普段からいい授業をやっているベテランの先生に(CAIの授業を)やっていただいて、(データを見て)こんなに個人差があると思わなかったと言われました。普段手をかけて、よく個別指導をしている先生でも、こんなにすごい差があるんだなど実感してもらうことができました。とにかく、1年生から6年生までCAIを使ってもらっています。そして、ほとんどが初心者ばかりだったのにインタラクティブスタディの教材を作りました。その中で、徹底的に子どものことを考え誤答分析をし、教材研究をしたことで、普段から子どもの思考を大事にする授業をしている学校だと言われるようになりました。

つくば市の共同研究のポイント

つくば市で実践している共同学習のポイントの第一は、市内の全小中学校53校すべてが(共同学習に)とりくんでいることです。マスコミで紹介される並木小、桜南小、竹園東小、吾妻小以外の学校でも頑張っています。二つ目は、昨年度からテレビ会議が(全校で)使われるようになりましたので、スタディノートとテレビ会議を併せて実践を行っていることです。三つ目は、電子掲示板が(総合的な学

習だけでなく)、各教科で活用できるように(それぞれ教科ごとに)用意されていることです。14年度は、すべての掲示板で15,000件以上のメールでの交流がありました。おそらく、今年度は20,000件を超えるのではないかと思います。つくば市教育委員会のホームページではその実践の一部を公開しております。(http://www.tsukuba-ibk.ed.jp/sennsinn/mokuji.html/)

(竹園東中学校杉田慶也先生)



《北海道ECHOの会》

3年前にECHOの会を立ち上げました。毎年夏には帯広・十勝方面で研究会を行っております。この

夏も開催する予定です。最初のユーザー会設立の時の研究会では、羊を一頭平らげました。

札幌では、209の小学校全部にスタディノートが入っています。我々の手でスタディノートの名簿からスタディだけでなく、14年度からはリプレイスも始まっています。そこで、スタディノートの名簿データから他のソフトのユーザーアプリケーションができるAntaDare(アンタダレ)システムというものを開発して導入しました。(土田幹憲先生)

《鳥取スタディの会》

かなり以前から活動していて、何年か前には余田先生において頂いて県内百名以上の参加者を得て情報教育という事で研修会を行いました。しかし、現在はメーリングリストによる情報交換のみになっています。県の東部を中心にスタディノートの導入は

進んでますが、あたらしい導入校の先生方になかなか会にご参加いただけず、どのような取り組みが行われているのかが掴みにくい状況にあります。何とか全国の状況を伺いながら新たに導入された学校の先生を仲間に加えて、一度輪を作り直そうと考えています。(谷口淳先生)

《NETの会》

長野県から筑波大の中山先生のところへの内地留学経験者を中心にしたNETの会は結成10年を超えました。ここでは、ちょっと変わった活動をご紹介します。東原先生が信州大学の2年生の必須科目でコンピュータ教育利用という授業を担当されています。これにNETの会が協力していて、大学2年生を対象に会員が授業をやっております。インタラクティブスタディ、スタディノートと内容はさまざまですが、これから教師を目指す学生に講義をしていますので、授業を構築するときに教師として何を考えたか、どのようなことを意図して授業を仕組んだか、教材を作った目的は何かといった、普通の実践報告とは違った内容で話しをしています。

夏です、研修会のお知らせです！

インタラクティブ・スタディ教材開発研修会 ～夏だ！花火だ！CAIだ！～

さわやかな信州の風の中で、インタラクティブ・スタディの教材開発を楽しんでみませんか？

スタディの資産を継承しつつWebベースで実行できるインタラクティブ・スタディは、実行のための特別なソフトを必要とせず、Webブラウザで学習することができます。学校の授業の続きを、帰宅後インターネットに接続されたパソコンでやるぞ！なんてことが本当にできるのです！合わせて、教材テンプレートからコースウェアの自動生成（明日のドリルがすぐ準備できます）機能の装備や、ブラウザ側のJavaアプレットを利用したのマイクロな応答処理・学習制御の機能なども実現されています

そこで、かつての大池自然の家でのCAI研修会の伝統息づく地で、インタラクティブ・スタディの教材開発研修会が企画されました。花火大会が行われる上山田温泉で、教材開発に打ち込む夏はいかがですか。

なお、この研修会では初心者コースの設定もあります。これから教材作成に取り組まれる方も、これまでのノウハウを学び、よりよい教材を目指してみませんか。申し込みをお待ちしております。

主催者 長野県コンピュータ利用教育研究会（NETの会）
共 催 信州大学教育学部附属教育実践総合センター
更埴市教育委員会、上山田町教育委員会
後援 シャープシステムプロダクト（株）（予定）
協力 万葉の宿「佐久屋」
開催日 2003年8月8日（金）9:30～10日（日）13:00
※花火大会は8月7日（木）19:00～
会場 万葉の宿「佐久屋」館内コンピュータ室
募集人数 30名（スタディ教材開発の経験がある教員・指導主事・学生・教育委員会）
費用 2万円（予定） 含：2泊3日宿泊料（食事代込み）、
8月8日懇親会、資料代（その他 研修会諸費用が若干必要になります）
締め切り 2003年7月27日
詳細・申込み <http://cert.shinshu-u.ac.jp/et/study/istudy/index.html> の教材開発研修会をご覧ください。

スタディメディアコーディネータ研修会が無事終了してホッとしているうちに、七夕も過ぎてしまいました。時の流れの速さに唖然とさせられます。小学生の頃には、20分の休み時間ですら、あんなにいろいろなことができたのに。

ECO News No. 85を発行致しました。ご意見、ご感想を21世紀教育研究所までお送り下さい。

ネットワークで育む「確かな学力」 学校教育用グループウェア活用研修会

学校教育用グループウェア『スタディノート』の活用を中心に、インターネットや校内ネット（LAN）の授業での有効な活用法を実践的研修を通して探ります。スタディノートを授業の中で一度でも使ってみた経験がある方で、「自信をもって使えるようになりたい」、「上手な使い方を知りたい」、「授業での色々な使い方を知りたい」と思っている先生方にぴったりの研修会です。

東日本 日程 8月7、8日
会場 筑波女子大学
受付締切 7月18日
詳細 http://www.kasei.ac.jp/eco/kouza/03/tsukuba_ws_2004.pdf
西日本 日程 8月11、12日
会場 同志社びわこリトリートセンター
受付締切 7月14日
詳細 http://www.kasei.ac.jp/eco/kouza/03/dwc_ws_2004.pdf

今年は、どちらの会場も受付の締め切りが早くなっておりますのでご注意ください。

おすすめ



（其の二）

信州大学教育学部附属教育実践総合センター
『教員養成系大学における情報教育の試みⅣ
コンピュータ利用教育（集中講義編）』

NETの会会員が、信州大学の2年生を対象に行った授業の記録です。授業を構築するときには教師として何を考えたか、どのようなことを意図して授業を仕組んだか、教材を作った目的は何かといった、普通の実践記録集とは違ったものとなっています。

この本にある各「授業の概要」というところは、保証される成果以下そのまま研修会の企画をするときに役に立つものと思います。最近の東原先生のエッセンスが詰まってる本です。（推薦：余田義彦）

Educational Research Institute for the 21st Century

21世紀教育研究所

■ address 〒305-0045 茨城県つくば市梅園2-33-6
■ TEL 029-850-3321
■ FAX 029-850-3330
■ e-mail econews@eri21.or.jp
■ URL <http://www.eri21.or.jp>